

文化財だより

たまごや
【ジャンボ卵焼き】

卵約三千個、長さ約67mの卵焼き

今回は、昭和 62 年に行われた「ジャンボ卵焼き」の写真を紹介します。

昭和 60 年頃、鶴川で苫小牧信用金庫 鶴川支店友の会（信友会）主催による、「信友会たんぼまつり」が開催されました。まつりは第 1 回（昭和 60 年）から第 3 回（昭和 62 年）まで行われ、多くの町民が参加する一大イベントに成長しました。当時のプログラムによると、ジンギスカン、カラオケ大会、綱引き、民謡（ししゃも舟歌など）、マラソン、ファッションショーなどが行われ、第 3 回目（昭和 62 年 5 月）のたんぼまつりでは、100 人以上の参加者を募り、ジャンボ卵焼きの製作に挑戦しました。

ジャンボ卵焼きの製作にあたり、長さ 61.88m の炭火式焼き台と、3,017 個の鶏卵を使用しました。参加者全員で溶き卵を作り、油を塗った焼き台に卵を流し込むと、頃合いを見計らって全員で一



斉に卵を巻きました。できあがった卵焼きは所々で途切れてしまいましたが、参加者が一丸となって取り組む暖かい光景が、有名なクイズ番組「なるほど!ザ・ワールド」で使用する素材製作のために、テレビの取材を受けたこともありました。

【写真】溶き卵をつくる会場風景

ジャンボ卵焼きが行われた翌年（昭和 63 年）には、町の活性化を図る目的から「たんぼまつり」は、鶴川町観光協会主催の「たんぼフェスティバル」に発展しました。たんぼフェスティバルでは、卵焼きに替わり直径 5m の巨大鉄鍋を使ったジャンボ豚汁が作られ、約 3,000 人の来場者に無料で振舞われました。そして、たんぼフェスティバルは平成 24 年の開催を最後に、翌年 9 月から鶴川地区を代表するイベント「第 1 回むかわグルメフェスタ」に引き継がれました。



【写真】 溶き卵を焼き台に流し込む

【連絡先】 むかわ町教育委員会生涯学習課社会教育G 電話 42-2487 FAX 42-4994